

令 和 2 年 度

事 業 実 績

川崎医療福祉大学

川 崎 医 療 福 祉 大 学

目 次

I	概 要	1
II	自己点検・評価活動	1
III	教育研究組織	2
IV	教育内容・方法・成果	2
1	学 部	2
2	大 学 院	3
V	入学試験及び広報活動	4
1	学 部	4
2	大 学 院	5
VI	教員・教員組織	6
VII	学生生活支援	7
VIII	就職 支 援	7
IX	研 究 活 動	8
X	教育研究等環境整備	9
1	教育研究等環境の施設整備	9
2	附 属 図 書 館	9
XI	社会連携・社会貢献	9
XII	管 理 運 営	10

I 概要

本学では、学園建学の理念及び本学の教育理念、教育目標の下に良き医療福祉人の育成に努めてきた。令和2年度には、学園の理念の新設に伴い、**大学の理念を「人間をつくる、体をつくる、医療福祉学をきわめる」と定め**、大学全体に周知するとともに、教育目標の達成に向けて全学で邁進している。

平成29年度に医療短期大学から移設した3学科も入学定員を割ることなく完成年度を迎えることができた。さらに、令和元年度に新設した保健看護学部及びリハビリテーション学部においても、入学定員を確保しつつ質の高い教育を継続することができている。大学全体としては、**令和3年度入学者選抜実施要項の改正に準じた入試を、3校合同入試として全教職員が連携し適正に実施**したが、少子化の影響を受けて、学部、大学院ともに入学者数において前年度を下回る結果となった。次年度は、特に定員未充足の学部学科については広報活動をより一層強化するとともに、教育研究組織の改編を視野に入れた検討をする必要がある。

大学院の改組については、既存の大学院医療技術学研究科臨床工学専攻に臨床検査学及び診療放射線技術学の2分野を統合し、**医療技術学専攻を新設**した。また、**臨床心理学専攻**においては、**令和4年度に入学定員を増員することとし、文部科学省に申請する予定**である。

また、令和元年度末から蔓延している**新型コロナウイルス感染症への対策**は、調査企画室を対策本部とし、学園対策本部と緊密な連携体制を築いた。学生には高齢者や病弱者の生命を尊重する姿勢を指導するとともに、教育研究が停止することで教育の質が低下しないよう全学を挙げて取り組んできた。その結果、国家試験等の合格率及び就職率において、コロナ禍にありながら、良好な結果を残すことができた。

令和2年度は、次年度に大学評価の受審、大学創立30年記念行事の実施等本学にとって重要な事業が控えているが、新型コロナウイルス感染症に対応しつつ、全教職員が共通認識を持ち、教育研究活動を実施することができた。

II 自己点検・評価活動

令和3年度に受審予定の大学評価に向けて、各学科・専攻、各部門・センター等での諸活動を取りまとめ、点検・評価報告書の作成を行うとともに、外部評価委員による総合外部評価を書面審査で実施した。併せて、大学基準協会に提出する根拠資料の取りまとめと、必要に応じて本学ホームページの整理を行った。

また、学修環境や学生生活、就職支援などの改善・充実を目的に、教育・学生生活等に関する在学生アンケートを実施した。結果は今後の改善につなげる予定である。教員評価は、例年どおり教員評価票を用いて自己評価、一次評価を実施し、学長ヒアリングを経て本人にフィードバックを行った。各種方針の見直しにおいては、新たに設置される大学院医療技術学研究科医療技術学専攻（修士課程・博士後期課程）の教育理念、目的、教育目標並びに3つのポリシーを制定するとともに、医療福祉学部臨床心理学科の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の一部を変更した。

III 教育研究組織

本学は、令和元年度に5学部17学科の新体制となり、医療福祉分野のより実践に強い医療福祉人の育成に大学一丸となって取り組んできた。

大学院の組織については、令和3年度に向けて、子ども医療福祉学分野は医療福祉学研究科医療福祉学専攻に包含することとし、臨床検査学及び診療放射線技術学の2分野については、医療技術学研究科臨床工学専攻と統合し、医療技術学専攻として新設することで文部科学省に申請した。医療技術学専攻として入試を実施し、令和3年度には6名の入学者を受け入れる予定である。今後は令和4年度に向けて、臨床心理学専攻の入学定員増を進めていく。

学部・学科等の組織とは別に教育研究組織として、医療福祉研究センター、総合教育センター、教職課程センター、学生支援センター、健康管理センター、学生相談室、ボランティアセンター、就職支援センター、社会連携センター、川崎学園アドミッションセンター、附属図書館、附属心理・教育相談室、看護実践・キャリアサポートセンターを設置している。令和2年度も、それぞれのセンターを運営する委員会で定期的に会議を開催し、教育研究活動を迅速かつ円滑に実施するために年次計画及びそれに対する点検を実施した。

学長のガバナンスの下、調査企画室では、各学部、大学院各研究科、全てのセンター及び事務部と適切な連携を取るとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し、事業の見直しと新規事業の立案策定を行っている。令和2年度は本学の新型コロナウイルス感染症対策本部として学園対策本部と連携を密に取り、大学全体に情報の周知を徹底し対応した。

IV 教育内容・方法・成果

1 学 部

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、多くの変更や調整が必要となったが、各学科の教育目標はおおむね達成され、教務委員会、総合教育センター、教職課程委員会及びFD・SD委員会の密な連携の下、全学的な教務活動が遂行できた。具体的な取組の成果については、以下に示す。

(1) 適正な教育環境の提供と教育の質の保証

- ① 緊急事態宣言による休校期間はあったものの、遠隔授業の導入、定期試験期間の弾力化、実習の代替措置などの柔軟な対応により、本年度実施すべき教育内容を担保し、カリキュラム体系の適正な維持を図った。
- ② 「指定規則」と「カリキュラム」とが整合性をもって運用できていることが確認できた。各学科の「学位授与方針」との関連を中心にシラバスの第三者チェックを実施し、修正完了後、学生に公開した。年度途中でシラバスに変更が生じた科目は、学生に対して丁寧な説明をした上で修正し、再公開した。
- ③ 実習室、自習室、面談室については、使用時間や収容人数を制限しつつ、学生の学修支援を行う体制を維持した。
- ④ 遠隔授業を導入するためのFD・SD研修会を複数回開催するとともに、授業研究カンファレンスを実施した。各学科・各教員が個々に創意工夫している授業手法の事例が発表され、活発な質疑、議論が行われた。学生による授業評価、卒業生アンケート調査についてはウェブで実施し、公開した。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した上で国家試験や各種資格試験対策を実施し、助産師、視能訓練士の国家試験で合格率100%を達成した。また、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、理学療法

士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士などの国家試験でも全国平均を上回る合格率で、好成績を上げることができた。なお、これらの国家試験ごとの結果は表IVで示す。

(2) 授業支援・教育支援システムの充実

学生が自身の学修状況を把握できる「出席確認システム」については、学生への公開を秋学期から再開した。また、学務システム及びポータルサイトのシステムリプレイスを実施し、e-ポートフォリオシステムの導入やLMS (Learning Management System) の要素を組み込むことについて検討した。さらに、システムの活用や遠隔授業受講、レポート作成・提出などの大学生活に必須となるノートパソコンの必携化について、調査企画室情報基盤整備ワーキングを中心として検討し、実施した。

(3) 教員免許状の再課程認定を受けたカリキュラム実施の確認と教職課程センターの充実

新たな教育職員免許状取得の課程認定を受けた学科において、関連する教育体制が認定どおり実施できているかどうか確認を行った。教育実習の一部が学内実習となったが、必要な内容が修得できるよう教育効果を担保した。教職課程センターを中心に、教員免許状の取得を目的とした科目等履修生への指導体制の整備・強化を行った。

2 大 学 院

- (1) 令和2年度は、「学位授与方針」に基づき、学位授与を適正に履行した。また、平成30年度入学生から履行した「修士論文審査に関する申合せ」に従い、修士論文審査を滞りなく行った。
- (2) 本学ホームページ及び同窓会等を通して、社会人の受入れを念頭に置いた「教育方法の特例措置」及び「長期履修制度」を周知した。また、奨学金制度やTA制度については、入学時のオリエンテーションで周知した。令和2年度入学生42名（修士課程36名、博士後期課程6名）のうち26名が社会人（修士課程21名、博士後期課程5名）であった。修士課程及び博士後期課程における社会人入学生的割合は、令和元年度とほぼ同じであった。TA制度に基づき教育補助業務を行った大学院生は、修士課程(TA(M))24名、博士後期課程(TA(D))2名であり、将来の教育者・研究者としての研さんを積んだ。
- (3) 学際的な研究活動及び国際コミュニケーション能力の醸成のために川崎医療福祉学会と協力し、国際学会口頭発表者に支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により申請がなかった。本学で開催された川崎医療福祉学会第58回研究集会において、修士課程6名が研究発表を行った。
- (4) 大学院生を研究倫理研修会やコンプライアンス等研修会(FD・SD委員会共催)に参加させ、研究倫理、研究倫理教育、動物実験等の実施に関する基本方針、個人情報保護法、臨床研究法に関する最新情報を提供した。大学院専攻交流会及び入学時オリエンテーションにおいて倫理講話「研究倫理と研究倫理教育」の機会を設け、研究倫理教育を徹底した。
- (5) 第6回大学院専攻交流会を3月16日に開催し、大学院生8名（修士課程7名、博士後期課程1名）が発表した。新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインでの開催とした。会場に18名、オンラインで62名が参加した。
- (6) 学修賞の表彰・推薦基準等に基づき修士課程2年次生1名を表彰した。

表IV 令和2年度 国家試験合格状況

	試験	試験日	合格発表日	新卒		全国平均(%) (昨年度)	
				受験者数	合格者数	合格率(%) (昨年度)	新卒のみ
国家試験	社会福祉士	令和3年2月7日(日)	令和3年3月15日(月)	77	41	53.2 (72.5)	50.7 (56.0)
	精神保健福祉士	令和3年2月6日(土) 令和3年2月7日(日)		30	26	86.7 (66.7)	71.4 (74.0)
	公認心理師	令和2年12月20日(日)	令和3年2月12日(金)	9	6	66.7 (50)	81.0 (—)
	保健師	令和3年2月12日(金)	令和3年3月26日(金)	21	20	95.2 (100)	97.4 (96.3)
	助産師	令和3年2月11日(木)		3	3	100 (100)	99.7 (99.5)
	看護師	令和3年2月14日(日)		125	122	97.6 (97.7)	95.4 (94.7)
	視能訓練士	令和3年2月18日(木)	令和3年3月23日(火)	32	32	100 (100)	92.8 (97.7)
	言語聴覚士	令和3年2月20日(土)	令和3年3月26日(金)	44	41	93.2 (79.4)	—
	管理栄養士	令和3年2月28日(日)	令和3年3月26日(金)	46	45	97.8 (95.5)	91.3 (92.4)
	理学療法士	令和3年2月21日(日)	令和3年3月23日(火)	61	60	98.4 (100)	86.4 (93.2)
	作業療法士	令和3年2月22日(月)		57	56	98.2 (100)	88.8 (94.2)
	臨床検査技師	令和3年2月17日(水)	令和3年3月23日(火)	64	63	98.4 (—)	91.6 (83.1)
	診療放射線技師	令和3年2月18日(木)	令和3年3月23日(火)	43	42	97.7 (—)	82.8 (92.2)
	臨床工学技士	令和3年3月7日(日)	令和3年3月26日(金)	69	67	97.1 (98.5)	—

※下段()内は、令和元年度の数字

V 入学試験及び広報活動

1 学部

(1) 入学試験の実施

令和3年度入学者選抜実施要項の改正に準じ、川崎学園アドミッションセンターの方針の下に、入学試験委員会での協議を経て、総合型選抜、学校推薦型選抜（専願）（公募・有資格・指定校推薦による入試）、学校推薦型選抜（併願）A・B日程、一般選抜前期A・B日程及び一般選抜後期を、本学、医療短期大学及びリハビリテーション学院の3校が合同で遗漏なく実施した。全入試区分において面接を行い、学校推薦型選抜（専願）の有資格・指定校推薦による入試を除く入試区分において学力テストを行った。また、入学試験委員会での協議を経て、3年次編入学試験を遗漏なく実施した。

(2) 定員管理

令和3年度の入学者数は1,019名であり、入学定員1,186名を14.1%下回った。これは、医療福祉学科、子ども医療福祉学科、言語聴覚療法学科、臨床栄養学科、健康体育学科及び医療福祉マネジメント学部の各学科の定員充足率が35.0～88.3%と低迷したためである。新型コロナウイルス感染症拡大による志願者数の大幅な減少（34.8%の減少）が大きく影響したと考えられ、志願者数回復に向けた新たな広報戦略が必要である。3年次編入学者数はわずか7名（定員充足率：21.9%）であった。3年次編入学試験の在り方や定員の見直しについて、継続して検討することが必要である。令和3年度入試結果の概要は、表V-1、V-2のとおりである。

(3) 入試問題

一般選抜前期では選択科目型入試問題とし、その他の入試区分では3教科総合型入試問題（基礎学力確

認テスト)とした。それら入試問題については、出題ミスを防止するため、第三者チェックを実施した。

(4) 広報活動

キャンパスガイドの作成と関係方面への送付、及び学部・学科の紹介DVDの本学ホームページへの掲載を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、6月に予定していた高等学校進路指導教員及び3年担当教員を対象とした入試説明会、並びに6月及び7月に予定していたオープンキャンパスを中止した。一方、8月、9月及び3月には、新型コロナウイルス感染症対策を徹底してオープンキャンパスを実施した。オープンキャンパスは午前と午後の2部制とし、それぞれ定員500名(予約制)として実施した。加えてウェブによるオープンキャンパスを実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大による制約がある中、入試課職員による高校訪問(延べ1,556校)、進学相談会(72会場(内、資料参加のみ2会場、ウェブ1会場)、634名参加)及び高校内ガイダンス(166校(内、ウェブ22校))、並びに学科教員によるガイダンス・模擬授業(66校・会場(内、ウェブ7校・会場))を実施した。

2 大 学 院

(1) 入学試験の実施

入学試験委員会での協議を経て、入学試験(1期及び2期)を遗漏なく実施した。

(2) 定員管理

令和3年度の入学者数は、修士課程が48名(定員充足率:56.5%)、博士後期課程が10名(定員充足率:58.8%)であり、令和2年度よりも改善した。修士課程における本学の卒業生は29名(60.4%)、大学院等在職進学制度利用者は11名(22.9%)であった。博士後期課程における本学大学院修士課程の修了者は5名(50.0%)、大学院在職進学制度利用者は1名(10.0%)であった。令和3年度大学院入試結果の概要は、表V-3、V-4のとおりである。

(3) 入試問題

修士課程(一般)及び博士後期課程の英語問題については、全専攻共通の問題とした。

(4) 広報活動

本学ホームページ及び同窓会報に大学設置基準第14条の教育方法の特例に基づく措置制度及び長期履修制度の概要を掲載した。志願者数を増加させるためには、本学の卒業生等に対する広報活動を更に強化するとともに、川崎学園職員に対する大学院等在職進学制度のより一層の周知を図る必要がある。

表V-1 入学試験及び入学状況

(令和3年4月1日現在)

試験区分	学部 学科	医療福祉学部		保健看護学部		リハビリテーション学部				医療技術学部				医療福祉マネジメント学部				計	
		医療福祉	臨床心理	子ども医療福祉	保健看護	理学療法	作業療法	言語聴覚療法	視能訓練法	臨床検査	診療放射線技術	臨床工	臨床栄養	健康体育	医療福祉経営	医療情報	医療秘書		
入学定員		136	80	80	120	60	60	60	40	60	60	80	50	80	60	60	40	1,186	
総合型選抜	募集人員	54	30	36	33	16	16	24	16	16	16	24	18	34	24	24	24	16	421
	志願者数	34	33	32	92	80	39	33	38	33	63	34	20	27	7	16	18	6	605
	入学者数	34	31	32	47	21	27	33	32	21	24	31	18	26	7	16	18	6	424
学校推薦型選抜(専願)	募集人員	22	14	20	24	12	12	8	12	12	16	10	16	12	12	12	8	234	
	志願者数	24	23	25	60	63	17	10	12	21	46	11	12	9	9	9	13	6	370
	入学者数	23	21	25	34	19	15	10	8	15	20	9	11	9	9	9	13	6	256
学校推薦型選抜(併願) AB日程	募集人員	27	12	12	24	12	12	10	6	12	12	14	8	12	10	10	10	6	209
	志願者数	36	39	14	195	103	44	15	19	71	106	42	19	31	17	20	5	6	782
	入学者数	9	18	6	30	16	16	4	4	16	12	15	5	12	7	5	2	2	179
一般選抜 前期 AB日程	募集人員	30	22	10	36	18	18	12	8	18	18	24	12	16	12	12	12	8	286
	志願者数	52	56	17	232	114	53	20	9	142	164	70	35	21	14	13	7	3	1,022
	入学者数	16	16	5	15	11	6	6	2	11	10	17	4	8	2	2	1	0	132
一般選抜 後期	募集人員	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	36
	志願者数	7	6	0	19	8	2	1	1	13	18	7	2	3	5	3	1	0	96
	入学者数	3	4	0	3	1	0	0	0	4	3	5	0	1	3	0	1	0	28
合計	募集人員	136	80	80	120	60	60	60	40	60	60	80	50	80	60	60	40	1,186	
	志願者数	153	157	88	598	368	155	79	79	280	397	164	88	91	52	61	44	21	2,875
	入学者数	85	90	68	129	68	64	53	46	67	69	77	38	56	28	32	35	14	1,019

表V-2 編入学試験及び編入学状況

学部 学科	医療福祉学部			医療技術学部		医療福祉マネジメント学部				計
	医療 福祉	臨床 心理	子ども 医療福祉	臨床 栄養	健康 体育	医療福 祉経営	医療 情報	医療 秘書	医療福祉 デザイン	
募集人員	10	5	2	3	3	2	3	2	2	32
志願者数	3	4	0	0	4	0	1	1	0	13
編入学者数	2	0	0	0	3	0	1	1	0	7

表V-3 大学院入試（修士課程）及び入学状況

研究科 専攻	医療福祉学研究科			医療技術学研究科				医療福祉マネジメント学研究科				計
	医療 福祉学	臨床 心理学	保健 看護学	感覚 矯正学	健康 体育学	臨床 栄養学	リハビリ テーション学	医療 技術学	医療福祉 経営学	医療 秘書学	医療福祉 デザイン学	
募集人員	10	12	12	8	8	8	6	8	3	2	4	85
志願者数	4	20	12	1	2	3	2	6	3	2	1	58
入学者数	3	11	12	1	2	3	2	6	3	2	1	48

表V-4 大学院入試（博士後期課程）及び入学状況

研究科 専攻	医療福祉学研究科			医療技術学研究科				医療福祉 マネジメント学 研究科	計
	医療 福祉学	臨床 心理学	保健 看護学	感覚 矯正学	リハビリ テーション学	健康 科学	医療 技術学		
募集人員	3	2	2	2	2	2	2	2	17
志願者数	4	0	1	1	0	3	1	0	10
入学者数	4	0	1	1	0	3	1	0	10

VI 教員・教員組織

本学では、本学の定める「求める教員像」に合致した教員を、学科長の推薦により教員選考基準、教員選考規程及び大学院教員任用規程を基に、全員学長面談を行い、教授・准教授においては、教育研究、学生指導、学科運営についての資質をプレゼンテーションで確認後、人事委員会において厳正に審査し、大学運営委員会で候補者を決定している。また、教員の昇任については、学長が各学科長とのヒアリングにおいて、「教員の教育研究活動の業績・能力についての評価制度」による評価結果を基に判断し、待遇に反映させている。なお、令和3年度人事から、昇任プレゼンテーションの内容を実情に即した形に見直した。

令和2年度は、「教員組織の編制方針」に従い、学校教育法第9章(大学)、大学設置基準第3章(教員組織)、大学院設置基準第3章(教員組織)や各資格養成に関わる指定規則等の関連法令に準拠した上で教育の質保証を重視し、各学科のカリキュラム編成に沿った教員の職位ごとの定員に従って適正な教員人事を行った。令和2年度は、新採用教員32名を加え教員数は総数357名となり、適切な数を配置することができた。

特に若手教員の適正な起用と育成のため、令和2年度に助教の任期に関する規程を見直し、最長更新年を5年から9年に改正した。

本学教員はFD・SD研修会への出席等、教育・研究・社会活動への積極的な参加により、個々の資質向上を図ることを意識して実行しているが、学生の授業評価、客観的で公正な教員評価により、点検・評価結果に基づく改善・向上を今後も継続して行うこととした。

VII 学生活支援

学生生活委員会を 11 回開催し、健康管理、環境美化、交通指導、奨学金説明会の案内、SNS 利用時の注意、学友会活動等の支援について計画的に取り組んだ。また、本年度は特に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて、各学科できめ細かく指導を行った。

- (1) 健康管理センターの利用者数が延べ 3,647 名（昨年度 3,784 名）であった。コロナ禍により学生の登校機会が減少したが、健康診断書の申請などメール等による対応が増加したことにより昨年度と同程度となった。定期健康診断の受診率は 98.6% で昨年度並みであった。学生相談室においては、健康問題の相談が 41.0% で昨年度の健康問題・情緒問題（48.8%）から幾分減少した。逆に勉学上の問題が 20.5%（昨年度 9.7%）と大きく增加了。いずれもコロナ禍による授業体制や生活環境の変化が要因と考えられる。
- (2) コロナ禍における安全な生活の場を提供するため、新たな食事場所の提供、学生ラウンジの利用制限や部・サークル活動休止などの対応を行った。また、県外移動届や健康観察表などにより、学生の行動や健康状態を把握して自宅待機を求めるなど感染拡大防止に努めた。
- (3) コロナ禍により、貸与奨学金応募説明会を除いて、採用ガイダンス、返還説明会が開催できず、窓口対応の他にポータルサイトでの案内（9回）と個別郵送（約 1,100 名）で対応した。また、国的学生支援緊急給付金・助成金に対して 674 名の申請手続きと給付を行った。また、新設された高等教育における修学支援新制度など奨学金業務について、丁寧な説明や個別の指導に努め、確実に手続きを完遂することができた。
- (4) 登校時間帯の本学周辺の交差点において、各学科教員による年間 21 回の交通指導と学生課職員による毎週 1 回の交通指導を行った。これらの対応により、近隣からの通学マナーに関する苦情が激減した。
- (5) 防犯対策や環境美化の一環として、毎月複数回にわたって各学科教員や学生課職員による学内外巡回やロッカー室、部室等の見回りを行った。これらにより喫煙等についての近隣からの苦情やロッカー室の放置物の減少が見られた。学友会と連携しての清掃活動はコロナ禍により中止となった。
- (6) 学友会組織との連絡会や学園祭活動の改善などについては、コロナ禍により年間を通じて学生間の交流ができず、十分な取組とならなかった。

VIII 就職支援

令和 2 年度の最終進路状況は表 VIII に示すとおりである。求人状況としては、本学への信頼を背景として、非常に高い求人倍率を維持していたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度より全体で 5% 程求人が減少した。求人数が減少し、就職活動も制限され、就職支援センターに個別相談に来る学生が昨年度より増えた。なお、コロナ禍により就職活動に制限があったにも関わらず、最終進路状況は 98.9% となり、10 年連続で 98% を越える高い就職率を維持している。

業種分類別でみても、医療と福祉を合わせて高い割合を維持し、「医療と福祉の両分野にまたがる高い知識と優れた技能を併せ備えた有能にして社会の要請に応え得る有為な人材を養成する」という本学の目的に向けて着実な歩みとなっている。

表VII 令和2年度最終進路状況

(令和3年5月1日集計 令和3年3月31日現在)

学部	学科専攻	卒業者数	進路志望別人数					進学者数	就職者数			就職率(%)			
			進学	その他	就職				計	男	女	計	男	女	
					計	男	女								
医療福祉	医療福祉	79	1	3	75	28	47	1	72	25	47	96.0	89.3	100.0	
	臨床心理	60	14	6	40	17	23	14	40	17	23	100.0	100.0	100.0	
	保健看護	124	8	5	111	13	98	8	111	13	98	100.0	100.0	100.0	
	医療福祉子ども	76	1	3	72	2	70	1	72	2	70	100.0	100.0	100.0	
	学部計	339	24	17	298	60	238	24	295	57	238	99.0	95.0	100.0	
医療技術	感覚矯正(視能)	29	0	1	28	5	23	0	28	5	23	100.0	100.0	100.0	
	感覚矯正(言語)	42	0	1	41	5	36	0	40	5	35	97.6	100.0	97.2	
	健 康 体 育	66	1	2	63	34	29	1	63	34	29	100.0	100.0	100.0	
	臨床栄養	46	1	1	44	5	39	1	43	5	38	97.7	100.0	97.4	
	リハビリテーション(理学)	60	2	0	58	27	31	2	58	27	31	100.0	100.0	100.0	
	リハビリテーション(作業)	53	0	0	53	20	33	0	53	20	33	100.0	100.0	100.0	
	臨床工	68	1	2	65	46	19	1	64	45	19	98.5	97.8	100.0	
	臨床検査	64	7	1	56	9	47	7	56	9	47	100.0	100.0	100.0	
	診療放射線技術	43	0	3	40	25	15	0	39	24	15	97.5	96.0	100.0	
	学部計	471	12	11	448	176	272	12	444	174	270	99.1	98.9	99.3	
マネジメント	医療福祉経営	31	3	4	24	10	14	3	23	9	14	95.8	90.0	100.0	
	医療秘書	37	0	3	34	1	33	0	33	1	32	97.1	100.0	97.0	
	医療福祉デザイン	22	1	2	19	3	16	1	18	3	15	94.5	100.0	93.8	
	医療情報	50	0	0	50	34	16	0	50	34	16	100.0	100.0	100.0	
	学部計	140	4	9	127	48	79	4	124	47	77	97.6	97.9	97.5	
合計		950	40	37	873	284	589	40	863	278	585	98.9	97.9	99.3	

IX 研究活動

令和2年度は、不正防止及び倫理的配慮、競争的資金獲得のための研修会等の実施に加え、特許等の出願を推進し、安全保障輸出管理体制整備に着手した。

- (1) 教員の研究専念時間の確保を目的とするアンケートに基づく教員の研究専念時間の確保のための検証及び改善への取組を進めた。
- (2) 「研究業績プロ」による業績管理を徹底して実施した。令和2年度は、海外へ向けて本学ホームページによる研究活動の周知を継続して検討した。また、researchmapとの連携機能を整備し、教員の利便性向上と業績管理の効率化を図った。
- (3) 不正防止のための研修会をFD・SD研修会（コンプライアンス等研修会）として実施、またeAPRIN受講を全教員に義務付け（いずれも100%受講）、不正防止の啓発を徹底した。不正防止計画にて具体化したモニタリングと第三者による内部監査（無作為抽出：12件（うち、特別監査1件））を継続的に実行した。研究活動を支援するための最新の研究倫理に関する情報と研究公正の啓発を周知した。競争的資金については、獲得のための研修会を6回（学内講師：6回）開催した。特に、科研費獲得による研究活動の促進が、学内の研究活動及び知的財産発掘の活性化へ発展し、特許等の具体的な申請（特許：2件）に寄与した。科研費は、表IXで示すとおり90件（新規25件、継続64件、転入1件）採択された。科研費以外の外部競争的資金は、19件採択された。
- (4) 技術流出防止マネジメントを含んだ安全保障輸出管理に関する規程を整備した。

表IX 科学研究費助成事業 管理課題（代表課題）採択数推移

	申請件数(※)	当該年度 管理課題数				前年度比
		(新規)	(継続)	(転入)	(合計)	
平成 30 年度	93	24	47	4	75	
令和元年度	91	31	56	1	88	1.17 倍
令和 2 年度	102	25	64	1	90	1.02 倍

※前年度秋（9～11月）に申請を行い、採択年度の4月1日に交付内定

X 教育研究等環境整備

1 教育研究等環境の施設整備

本学は、令和2年度に過去最高の学生数を収容することとなった。「教育研究等環境の整備に関する方針」に基づき目標を立て、本学の教育研究がより充実するよう環境整備を行った。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、遠隔授業の導入及び対面授業では学生数の制限、距離を取って着座させるなどの対応を余儀なくされたが、現存の施設の使用方法を見直し、132名収容可能な教室を新設し、他の講義室と合わせて対応することができた。また、車椅子の学生に対する環境整備として、学科実習室の扉を一部引き戸に改修した。今後も学生支援センターと連携し、障がいを持った学生への配慮を率先して実施していく。学内のWi-Fi環境整備については、学生ラウンジ、4階展示ブース、各階ラウンジ、図書館等に加え、教室等で学生が広く使用できるよう計画を進めた。教育研究環境の整備として、令和2年度から教員研究費で購入するパソコンの仕様を統一し、総合教育センターで一元管理できるようにした。

2 附属図書館

本学附属図書館基本方針に従い、教育研究活動を支援する図書館活動展開の方策として、利用促進のための「図書館学生Web選書2020」「新入生図書館オリエンテーション」を新型コロナウイルス感染症対策に留意の上、形態を変更して実施した。「第9回図書館ベストリーダー賞」では、学生の図書館利用制限期間があったにも関わらず、例年の受賞者と同等の貸出利用数であった。また、昨年度に引き続き、新設学科・改組学科が完成年度以降に運用する配分額基準案作成に向け、具体案を提示しながら図書館運営委員会で検討した。閲覧席飛沫防止パネルの設置や情報検索講習会使用教室の利用率を50%にする対応で、安全性を確保しながら利用者の学修・研究支援を行った。

XI 社会連携・社会貢献

本学社会連携センターの各部門における令和2年度の実績は以下のとおりである。

(1) 地域連携事業

新型コロナウイルスの感染拡大により、本年度の公開講座はオンラインで実施された。オンライン公開講座第1弾の「かわさきエクササイズ」は759回、第2弾の「自閉症の特性」は2,433回、第3弾の「感染症について」は340回視聴されている（令和3年4月1日現在）。総合医療センターでの市民公開講座は中止となった。学科公開セミナーは全てオンラインで開催し、合計延べ300名の参加があった。また、大

学コンソーシアム岡山との連携事業「日ようび子ども大学」は中止された。「吉備創生カレッジ」にはリハビリテーション学部・医療福祉マネジメント学部から各 1 名の講師を派遣した。倉敷市大学連携講座には 2 名の講師の派遣要請に応じた。教員による一般市民対象学外出張講座は合計 11 件実施された。

(2) TEACCH 普及活動事業

年 25 回にわたる「自閉症特別講座」は遠隔で実施し、12 名の受講生に修了証書を授与した。本年度の「レベルアップセミナー」は中止となった。ウェブ開催となった「トピックセミナー」には 312 名の申し込みがあり、当日 228 回のアクセスがあったほか、見逃し配信も数多く視聴されている。

(3) 高大連携事業

高校生の本学への訪問・見学は、岡山・香川・広島からの延べ 7 校にとどまった。他方、本学の教員が岡山・徳島の延べ 44 校に派遣され、講義・講演を行った。連携協定を結んでいる玉野光南高等学校対象には出張講義を 5 回行い、各回につき 80 名の生徒が参加した。清心女子高等学校では 30 名の生徒が連携講座を受講した。

(4) 國際交流事業

新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外研修、留学生・海外からの教職員の受け入れ、海外提携校とのレビュー・ミーティングは実施できなかった。学生の海外への関心を喚起するため、カナダ・ヴィクトリア大学語学研修（令和 2 年 3 月実施）の報告会や、各研修の紹介動画の本学ホームページへの掲載などに取り組んだ。

XII 管理運営

本学は、令和 2 年度も「川崎医療福祉大学管理運営方針」に従い適正な管理運営を行っている。調査企画室では、学長のガバナンスの下、管轄部署と連携の上、ワーキンググループを組織するなどのサポートを行った。令和 2 年度は、調査企画室で本学の長期計画、中期計画及び目標の原案を策定し、全学に情報共有し教育研究活動を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策本部の調査企画室では、学園の対策本部と連携し、学長の指示の下感染拡大防止に関する対策を迅速に関係各部に指示し、報告を受けている。また、重要決定事項については、大学運営委員会で各部からの報告を検討し決定するとともに、各学科・専攻、事務部各課が情報を共有しつつ学生・教職員・保護者への周知を徹底し、対応している。

また、各教育研究組織、各委員会においては、「川崎医療福祉大学方針集」に明記した各方針に沿った年度計画の実施について検証し、その適正性は自己点検・評価委員会、大学運営委員会で検証を行った。

事務職員については、業務改善を行い時間外業務の削減及び有給休暇の取得に努めている。本年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、防災訓練は実施しなかったが、防災に関する DVD 視聴を全教職員に促し、防災への意識付けを強化した。

財務については、実勢型予算編成を早めに行い、財務委員会に諮った。各学科からの予算設定のための積算調書作成の際、高額備品等の各学科間での共用、設置場所の一元化等の調整を図りながら予算化することができた。令和 3 年度に向けて、実績に応じた予算編成を全学に促している。経常費補助金については、教育研究活動の改善に取り組み、「私立大学等改革総合支援事業-タイプ 1 教育の質的転換」に採択された。なお、各学科においては、無駄な備品の整理を徹底するとともに、教職員の備品管理に対する意識を強化した。